



＝より良い明日を目指して街づくり＝

（ただいま考え中！）

第52号 2016年4月

小田急金森泉自治会街づくり委員会

○**運行方法** 朝・夕の通勤・通学時間帯は、成瀬駅の到着時刻をなるべく安定させたいので、渋滞の起きやすい町田街道の走行距離を今よりも長くすることには不安があります。そこで「研究ルート」の運行想定時間帯を11時～16時とした上で、その

運行方法について尋ねました。全便をスーパー三和方面を通る「研究ルート」として運行する案に3割、従来のルートと「研究ルート」を交互に運行する案に4割、従来のルートだけ運行する案に2割弱との回答でした（図5）。

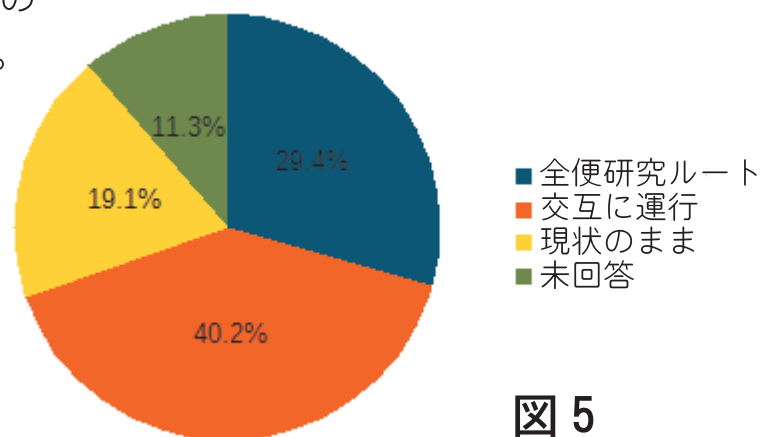


図5

○泉地区からのご意見

運行本数を増やせないでしょうか？

逆回りの運行はできないでしょうか？

成瀬駅のバス停に屋根の設置ができないでしょうか？

車内の段差を無くせないでしょうか？

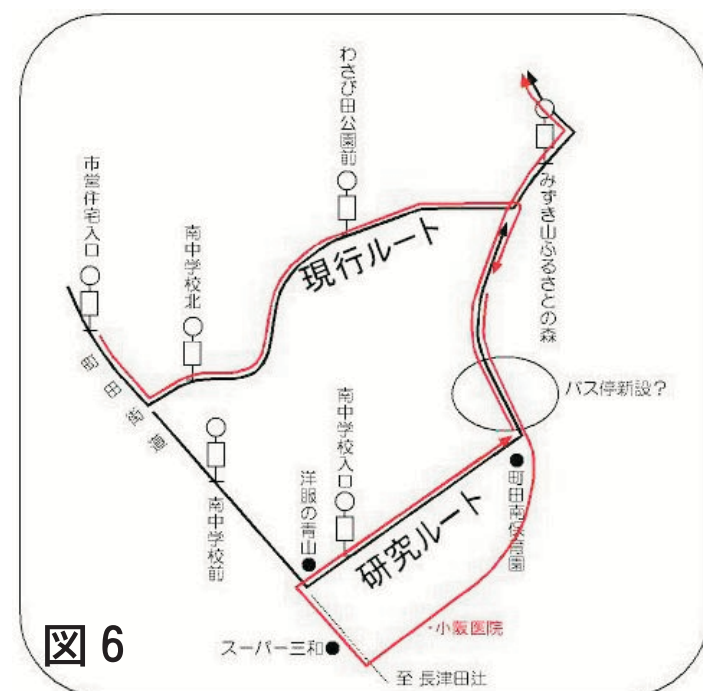


図6

- ・ 2つのルートを交互に運行すると運行間隔が空き過ぎます。
- ・ 図6のようなルートにすれば、不便になるバス停も無く、三和や医院の前に止まります。
- ・ 高齢の家族のためには、既存のバス停に止まらない時間帯ができるのは困ります。
- ・ 「かわせみ号」の運行が11～16時だけになってしまっは困ります。
- ▶ 全体の運行本数が減ったり、時間帯を狭めることはありません。

■実現に向けて

今後、町田市や神奈中との交渉を行って、まずは「研究ルート」を実現していきたいと思えます。

■かわせみ号について

成瀬駅南口とわたしたちのまちをつなぐ足として走る「かわせみ号」は、沿線自治会・町内会、町田市、バス事業者である神奈川中央交通の三者で協議しながら運行しています。2013年に実施したアンケート時に『「かわせみ号」をスーパー三和の近くに走らせて欲しい』という希望が寄せられていました。他にも総合体育館や町田駅方面などの希望もありましたが、走行ルートを大幅に変えない、既存バス路線と競合しないなどの条件を踏まえ、スーパー三和小川店への利便性向上のための検討を進めることになりました。

今回は、昨年12月に実施した、スーパー三和付近を通る研究ルートに関するアンケートの結果について概要をご報告します。詳細な報告書は実費程度にてお分けできる予定です。

■「かわせみ号」の利用特性

時間帯によって「かわせみ号」の利用状況に違いがあります。2013年に便ごとの利用状況を詳しく調べた結果を見ると、始発から5本目（成瀬駅8時25分発：当時の運行ダイヤ、以下同様）までは、通勤・通学利用者が各バス停から乗車し、成瀬駅で下車しています。6本目（成瀬駅8時50分発）から26本目（成瀬駅17時30分発）までは、シルバーパスでの利用者が多く見られます。日中は利用者の少ない便も散見されます。27本目（成瀬駅17時55分発）以降のシルバーパス利用者はほとんどなく、通勤・通学の帰宅の足として利用されています。31本目（成瀬駅19時40分発）で帰宅利用者のピークとなり、最終便（成瀬駅21時45分発）の利用者はごくわずかとなります。

【街づくりに関するお問い合わせは】 2班 船橋

tel : 042(795)9423/E-mail : adn75950@rio.odn.ne.jp へお願いします。

■「かわせみ号」をもっと使っていただくために

地域の足としてすっかり定着した「かわせみ号」ですが、運賃だけでは経費すべてをまかなうことができず、町田市から一定の範囲内で補助を受けて運行を継続しています。もっと利用が増えれば、安定した運営ができるようになります。利用しやすくなるように工夫を重ねていきますので、アイデアがありましたら、いつでもお知らせください。

図1は今回検討中の運行ルート案です。わたしたちの町では、スーパー三和の帰り道に利用できそうです。ふれあいまみじ館の利用者が不便にならないように配慮しながら検討を続けていきます。

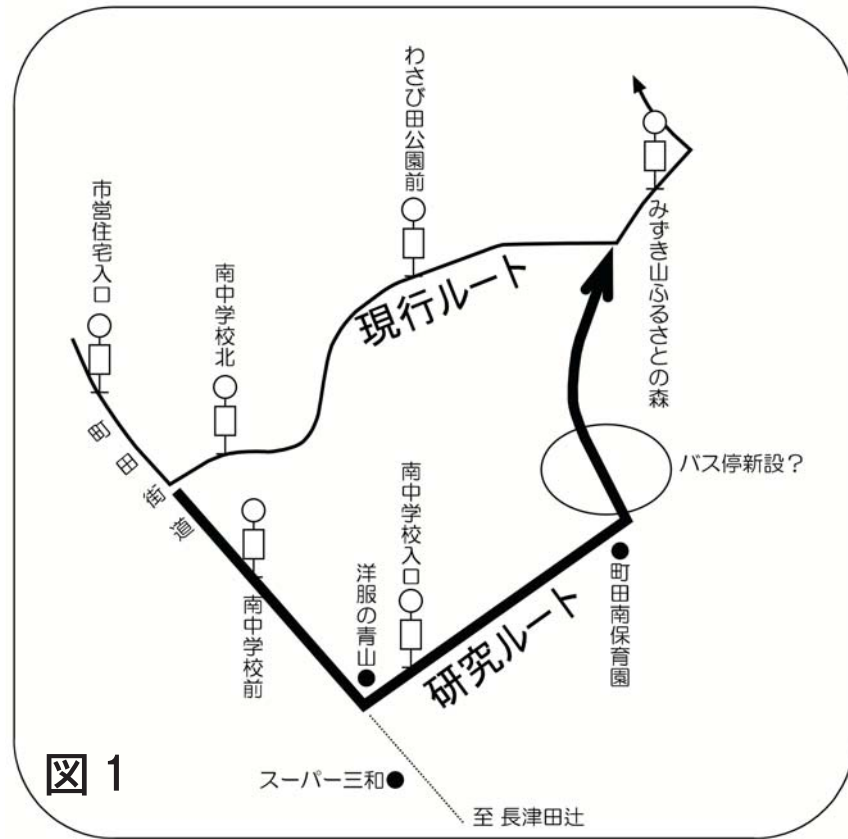


図1

■アンケート結果

○回答者数 「かわせみ号」沿線の自治会・町内会12団体とふれあいまみじ館の利用者を対象に1,718世帯、3,508人から回答をいただきました。これは、沿線人口（住民基本台帳：2015年12月1日現在）の2割にあたります。わたしたちの自治会では、216世帯、454人、回収率58.4%（世帯数）でした。

○年代別の利用頻度 運行距離が比較的短いことから、若い世代ほど、利用頻度は低くなっていますが、塾帰りなど夕方からは若い世代の利用が多いです。

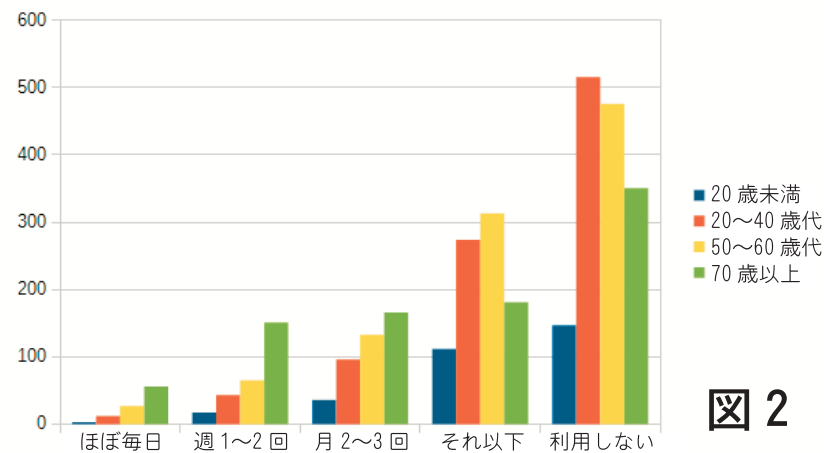


図2

○「研究ルート」が実現したら利用する？

「研究ルート」が実現した時の利用者はどれくらいになるでしょうか？「ぜひ利用したい」「利用したい」が49.2%、「利用しない」が42.3%でした。現在「かわせみ号」を利用している人のうち、「研究ルート」を利用したいと考えている人は62.1%、利用しないが37.9%でした。「かわせみ号」を使っていない人の中にも「研究ルート」を利用したい人が、41.1%いました。「研究ルート」が実現したら、これまで利用していなかった人が新たに利用するようになるかもしれません（図3）。

図3の結果を回答者の年代別に見てみると、若い世代の中にも新たな利用者が見込まれることがわかりました（図4）。

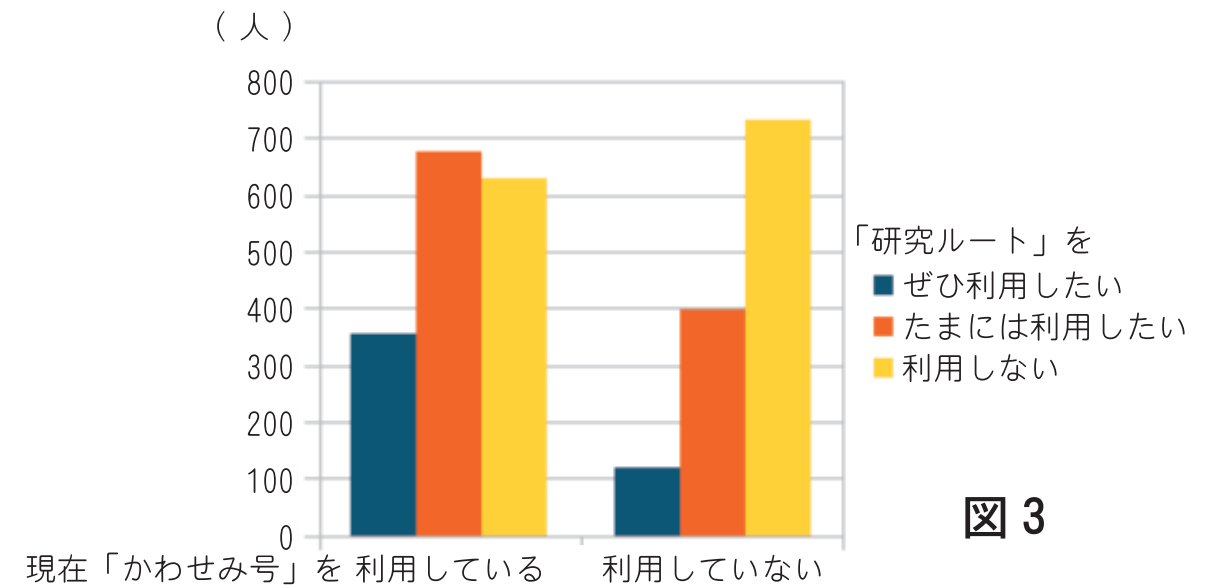


図3

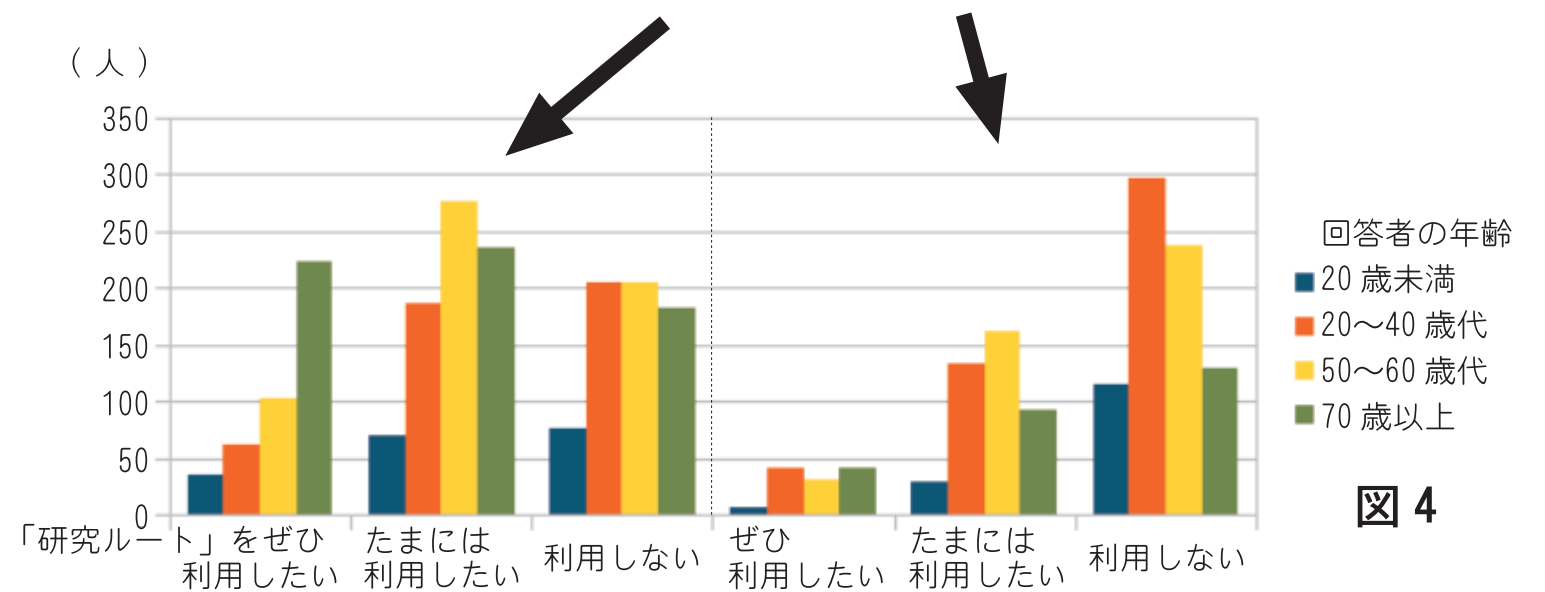


図4